

ハヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

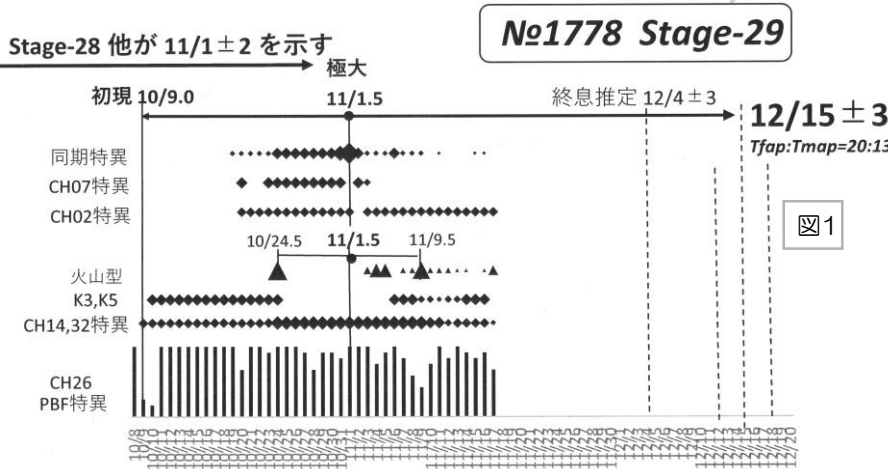
Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には是非ご参加下さい。本年1/1発生「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

### No1778 長期継続変動 続報

### Stage-29と別形態認識変動は同一認識 ➡ 12/15±3を示す可能性



前号までの報告では、ステージ28 他が示した11/1に極大があるステージ29と、火山性変動他を中心とした変動（別形態認識）は別形態と認識していました。

しかし、火山性変動の大きな日は10/24.5と11/9.5です。その中心は11/1.5で、同期特異の極大と同じ時期となります。

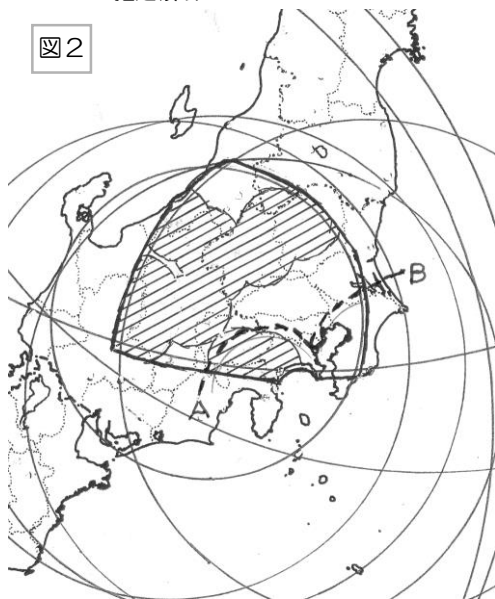
このため、二つの変動は同一現象を表していると再認識されます。左図1参照。

変動の継続状況は図1のとおりです。この認識が正しい場合は12/4±3時期に静穏化の可能性が計算されます。実際の継続状況等は続報で報告させていただきます。

この認識が正しい場合は、12月中旬近くまで発生の可能性は無く安全です。

No1778 推定領域

図2



A~B弧線以南の可能性は低い

- 推定領域：図2の太線領域内＝大枠推定領域  
図2斜線域＝可能性が考えやすい推定領域  
震央が火山近傍領域を含む可能性高い
- 推定規模：主震 M8.0±0.3 または  
複合の場合＝M7.4±0.3 + M7.3±0.3 他等  
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長Lkmが合計で約150km程度となる様な複合地震活動の可能性

※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい  
今後噴火変動が観測された場合は続報予定

- 推定時期：12/15±3（静穏化確認後修正予定）  
12/4±3に静穏化しない場合は再考  
12/4 以前に変動静穏化の場合は修正して続報予定

- 推定地震：震源浅い陸域地殻地震
- 推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3  
(午前09時前後～11時の可能性若干高い)